

第3回レベルアップ講習会（介護）

9月26日(金)10時より、提供会員さん対象の第3回レベルアップ講習会(介護)「車椅子・杖の介助法」を日本赤十字社愛媛県支部より中村 登美江さんをお招きして行いました。

16名の提供会員さんが参加し、二人一組に分かれてコムズの階段を使い、杖を使った歩行介助を行いました。車椅子の仕組みと点検のポイントを学び室内で段差の乗り越え方などを教わりました。その後、車椅子でのエレベーターの乗り降りや、新玉公園での屋外実習も行いました。



日本赤十字社 愛媛県支部
中村 登美江さん

車椅子に乗るといふ事は、他人に身を任せるといふ点で「不安」や「恐怖」を感じるものです。体調が悪ければなおさら感じるでしょう。自分の体に乗っている人に近づけ「声掛け」をすることで寄り添ってくれるという安心感が伝わります。その人と代わる事は出来ませんが、気持ちを近づけるようにできればいいですね。

しかし、できることを自分でしながら生活することも大切です。残存能力が衰えないよう、できるだけ活かしてもらえるといいですね。



講習会の様子



患側(麻痺などがあり不自由な側)に布を巻き、実習開始



二人一組に分かれ、コムズの階段を使い、先生の指導を受けながら杖の介助法を実体験しました。



室内に戻り、車椅子の開閉や点検、実際にお互いが乗車しあい、スピードの強弱の体験や段差の乗り越え方を学んだ後、新玉公園内にて屋外での実習を行いました。



講習会の感想

- 杖の歩行の時に、自分の足に布を巻いただけで自由が利かず、足取りも重くなる事がわかり麻痺の方の気持ちが少し理解できたと思います。
- 実際に車椅子の乗車体験ができ、頭で理解していても操作してみると思わぬことに気が付くことができたのでよかったです。
- 車椅子に乗る経験がなかったので、少しの段差もゴツンと衝撃があるだけでも怖く感じるものだという事がわかりました。
- 先生の説明も分かりやすくとてもいい体験ができ、また一つ得をしました。
- 声掛けをする大切さやコミュニケーションの大切さを学びました。

